



街道沿いに建つ鳥居

旧相模川橋脚碑 (国史)

大正12年(1923)9月の関東大震災と翌年の余震で水田の中から橋杭が出現した。調査の結果、建久9年(1198)源頼朝の重臣稲毛重成が亡き妻の供養のためそれまで朽ちていた橋を架け替える。そのときの橋脚の一部という。源頼朝はこの橋の落成式の帰りに落馬してそれが元で亡くなったという。その時馬が川に飛び込んだので馬入川と呼ぶようになったとか。



この寺に上野寛永寺石灯籠
2代將軍家忠公に寄進(1651)
9代將軍吉宗公に寄進(1761)

ここに三基の灯籠
中央に4代將軍家綱公に寄進(1651)
両側に10代將軍家治公に寄進(1786)



浮世絵師安藤広重は天保3年(1832)東海道を旅し、多くの風景画を残しているが、左富士はここ南湖と吉原で見ることができたという。



茅ヶ崎市街には松並木が残る(茅ヶ崎高校付近)



上野寛永寺の石灯籠は諸大名が歴代將軍の供養のため奉納された。寺にあるのは延宝9年(1681)4代將軍綱吉公に寄進されたもの。そのほか聖徳太子が自ら彫ったという太子像がある。

熊野神社
小和田一丁目
千手院
代官町

17世紀初め元榮和尚が開田し
永宝8年(1680)に堅岸和尚が建立した。
本尊は十一面千手観世音菩薩座
境内右に閻魔像と十王像を祀る閻魔十王堂がある。



閻魔十王堂

二ツ谷の庚申供養塔

中国の道教の教えに由来するもので、十干十二支の組み合わせにより60日毎に廻ってくる「庚申の日」に無病、息災、長寿を願う信仰。「庚申の夜、体の中にある三尸の虫が、眠って居る間に天に昇って天帝にその人の罪過を告げるため寿命が縮まる、との教え」、そのため庚申の夜は当番の家に人々が集まり、徹夜で飲食、歓談して過ごす風習。また供養塔なども建てられた。



この辺り大山詣での帰り江ノ島、鎌倉方面への休憩どころ、二軒茶屋あった二ツ家が本来の地名とか

